

神戸市兵庫運河周辺地域における地域活性化に関する調査

○（調査の背景・目的）中央卸売市場本場西側跡地では商業施設を核としたにぎわい拠点として、隣接する新川運河を活かしたプロムナードやオープンカフェ等による新たな親水空間の創出等、整備がすすめられている。当地域の活性化のため、運河全体の回遊性、水辺アクセスの向上、地域魅力の活用が求められており、商業施設と一体となった基盤整備の方向性と民間の活動と一体的に整備する効果を調査した。

（調査の手順）

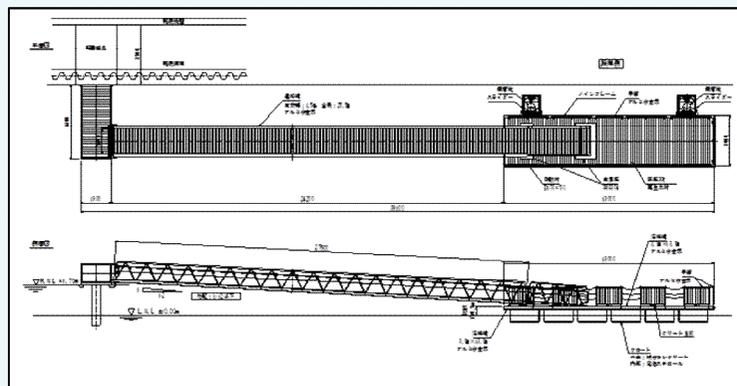


調査成果

1. 船着場等概略検討

浮棧橋を一例に利用条件等を設定し、概略検討。

- ・浮体構造：セパレートタイプ（フロート製）
長さ13.0m、幅3.0m、乾舷高さ0.5m
- ・杭係留方式
- ・配置：横づけ形式
商業施設の建物配置、対岸張出し形状を考慮
- ・渡り部：軽量盛土＋連絡橋



浮棧橋計画一般図（参考）

2. 夜間照明デザイン概略検討

- ・現状分析：全体的に暗い、白色の灯りが目立つ照明のグレアが目立つ、ランドマーク等演出不足
- ・デザイン手法：①心地よい「電球色」を基本、②オールLEDによる省エネ計画、③ランドマークのライトアップ、④間接照明と「魅せる・楽しい」照明の組み合わせ、⑤にぎわいづくり/おもてなしのあかりの仕掛け
- ・新川運河の照明デザイン
ポール照明の新設・配置見直し、樹木/植栽のライトアップ、橋・水門のライトアップ
カラープログラム導入



新川運河キャナルプロムナード照明デザイン（イメージ）

3. 水辺利用に係るマーケティング調査

- ・調査方法：水辺活用の実績・見込みある事業者（のべ16社）に現地モニター調査を行い、その後個別ヒアリングを実施
- ・ヒアリングの主な結果

水上アクティビティ事業：導入実績があり、綺麗で穏やかな水面が魅力であることから見込みがある。
舟運事業：運河の橋等物理的制約と陸上側のにぎわい施設の不足など、事業性の面で課題がある。

・事業成立条件の検討

- ①運河の水辺魅力拠点（陸側施設）の創造、②港湾区域を活用した官民連携の仕組みづくり、③水面利活用ルールづくりなど民間事業者間の連携、④民間投資誘致のための基盤整備等

基盤整備の方向性

- ・新川運河で親水空間、夜間ライトアップの整備を実施予定。
- ・兵庫運河側でもプロムナード整備を実施予定。
- ・「市街地西部活性化プロジェクト」提案募集を継続実施。活性化事業の新たな展開を期待。

民間の活動と一体的に整備する効果

- ・商業施設者側でも、既定計画だけでなく、「イベント広場の設置」や「建物も含めた夜間ライトアップの整備」を検討。
- ・官民連携して基盤整備等を検討し事業化することで、水辺を活用する民間事業者の進出意欲が高まりつつある。

今後の課題

- ・周辺未利用地等の開発を契機とした基盤整備
- ・官民が連携したにぎわいの創出
- ・地域ビジネスとして継続的に管理・運営できる体制、仕組みづくり

神戸市兵庫運河周辺地域における地域活性化に関する調査			
調査主体	神戸市		
対象地域	兵庫県神戸市兵庫区	対象となる基盤整備分野	港湾、海岸、道路

1. 調査の背景と目的

(1) 地域の特徴

神戸市は海と山の迫る東西に細長い市街地を持ち、日本を代表する港町である。当該運河は日本最大級の運河であり、国際港都神戸繁栄の礎となった歴史的遺産である。周辺には平清盛ゆかりの歴史資源や産業観光資源等の観光資源が点在している。

平成 20 年に国土交通省による「運河の魅力再発見プロジェクト」の認定を受け、平成 21 年に周辺住民・企業等・行政で構成する「兵庫運河活性化会議」を組織し、地域活性化に取り組んでいる。これまで、プロムナードなどの基盤整備により、地域主体で、兵庫運河祭を始め、レガッタなど水上スポーツや真珠貝を生育する環境教育活動「真珠貝プロジェクト」などの活動が継続して行われている。



図 1 兵庫運河周辺地域の現状と社会資本整備（見込み）

(2) 神戸市の基本計画と地域の将来像

地域の動きと連携し、平成 23 年に神戸市が策定した第 5 次基本計画において、兵庫運河周辺地域を「神戸のもつ特性を活かしその魅力に磨きをかけ、神戸のにぎわいや活力の創造を先導するリーディングエリア」のひとつに位置付けた。

また、地域・周辺企業・行政からなる兵庫運河活性化会議において、平成 24 年に「兵庫運河周辺地域のまちの将来像」をとりまとめた。

兵庫運河周辺地域の将来像（抜粋）

[新川運河両岸]

中央卸売市場本場西側跡地では、商業施設を核としたにぎわい拠点としての整備が今後進められます。隣接する中央卸売市場と連携した食文化の発信、新川運河を活かしたプロムナードやオープンカフェ等による新たな親水空間の創出等、中央卸売市場本場西側跡地の商業施設と新川運河キャナルプロムナードと一体となったにぎわい拠点づくりを進めていきます。



(3) 社会的背景・状況の変化、民間事業者の活動等

平成 24 年 7 月に中央市場跡地の事業者イオンモール（株）を選定した。当初計画では、歴史資産や運河など地域資源を活かし、運河沿いのプロムナードやオープンカフェを計画している。

なお、イオンモール（株）の当初計画では平成 27 年秋に開業を予定していたが、昨今の建設資材の高騰等により、開業時期が平成 28 年秋に変更となった。

(4) 基盤整備の必要性和調査目的

当地域の課題およびまちづくりの方向性は、下記のとおりである。

[課題]

- ・親水空間となる既設の親水プロムナードが連続しておらず、まちの回遊性に課題がある。
- ・運河水面の利活用に際して、水辺へのアクセスに課題がある。
- ・水辺と地域の歴史・魅力資源の連続性が乏しく、地域魅力の活用が不足している。

[まちづくりの方向性]

- ・兵庫運河のさらなる活用（水面利用の促進、親水性の向上）
- ・回遊性の向上（水面における回遊性、運河沿いの回遊性）
- ・周辺資源の活用（歴史資源、ものづくり現場、中央卸売市場や中部処理場の跡地活用）

2. 調査概要、手順

上記の課題解決に向け、下記のとおり調査を実施する。

① 船着場等概略検討

基盤整備として大型商業施設周辺のプロムナードや小型船舶等乗場など港湾・道路の基盤整備について概略検討を行う。

② 夜間照明デザイン概略検討

夜間景観など周辺環境と調和した魅力向上について概略検討を行う。

③水辺利活用に係るマーケティング調査

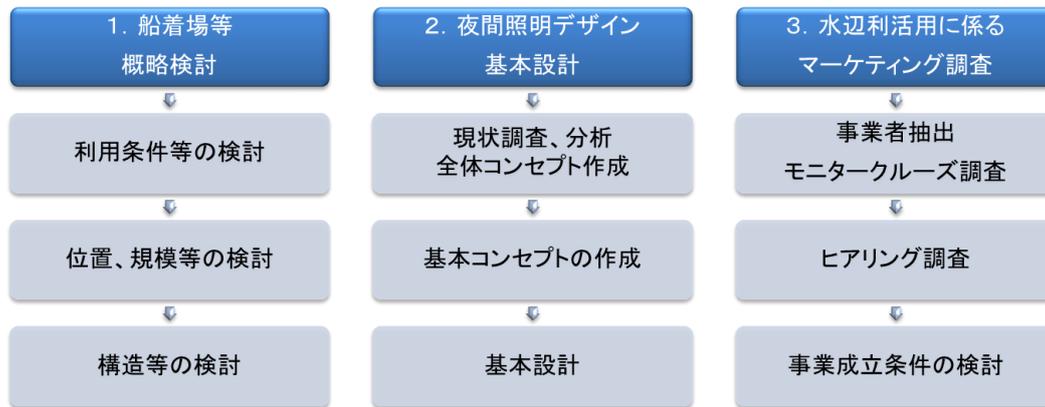
商業施設を整備するイオンモールや水辺空間を利活用する可能性がある舟運事業者、水上スポーツ事業者等に対して、モニタークルーズ調査などにより魅力・課題や事業アイデアを抽出する。

次に、ヒアリングや先進事例調査により、民間による活性化事業の実現可能性を検討する。

そして、民間事業者や港湾管理者等の意見を踏まえて、今後の官民連携した水辺空間の整備や管理・運営方法の方向性について検討を行う。

なお、調査にあたっては、基盤整備等の検討状況とマーケティング調査状況にあわせ、相互に調整を図った。

表 1 調査手順



3. 調査内容

(1) 船着場等概略検討

今後の集客拠点となるイオンモール前において、水面利活用が可能となるよう船着場の検討を行う。船着場の構造形式は干満差が大きく、また船舶が未確定のため、浮棧橋を一例に利用・自然条件を設定し、浮体・渡り部等の概略検討を行う。

①利用・自然条件の設定

利用条件、接岸する対象船舶、施設の規模、平面配置、また自然条件などの検討条件を整理・設定した。利用条件では、兵庫運河祭で使用した船舶（新川運河に進入可）を想定し、舟運事業者へのヒアリングを実施した。

②概略検討

検討断面（1案）について、下記項目を検討する。

- ・浮体の安定性
- ・中央市場跡地側プロムナード・既設護岸との取合いについて概略設計
- ・概算数量・概算工事費の算出
- ・配置計画案（平面図及び断面図）の作成

なお、本検討における上位条件は下記のとおりである。

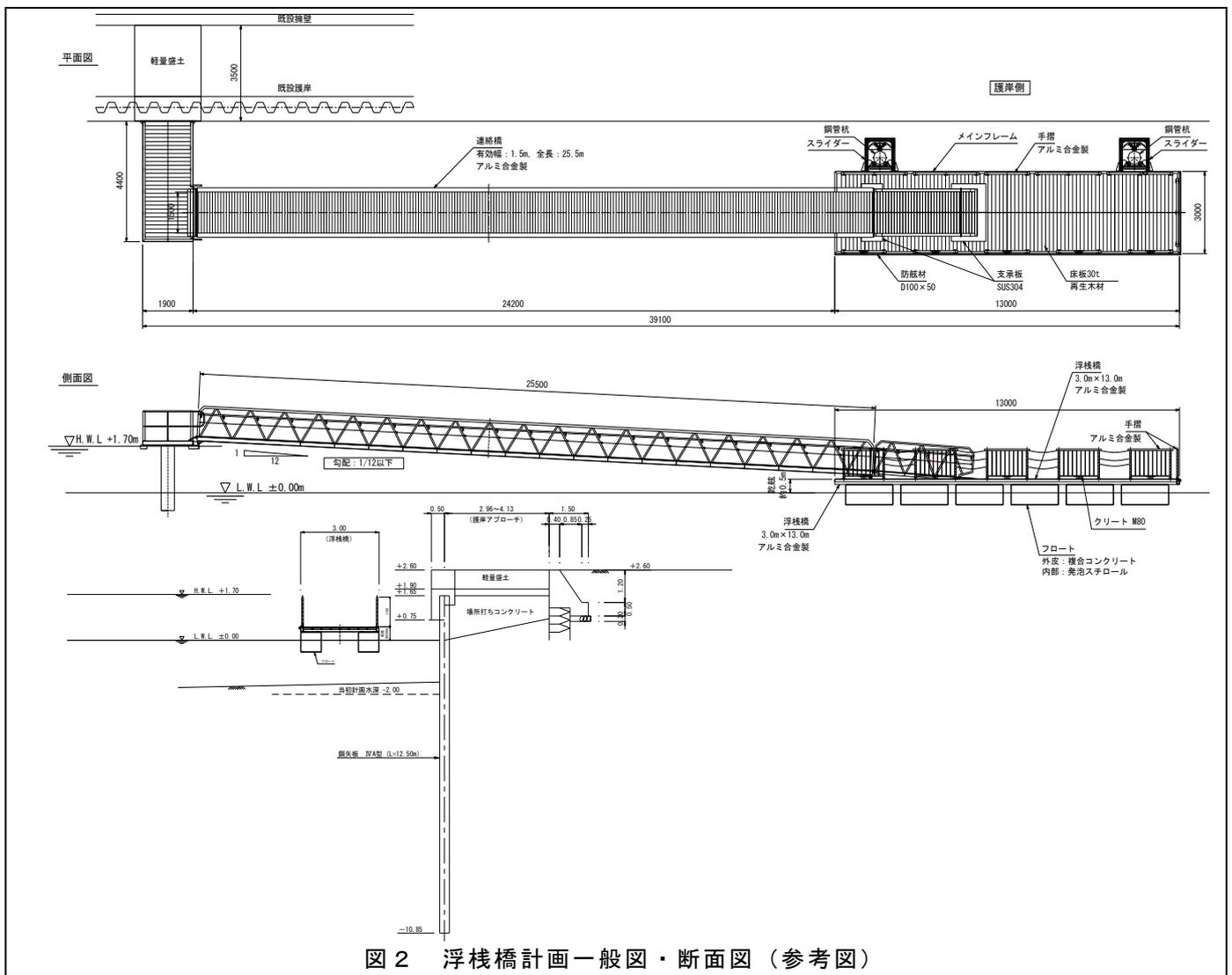
- ・現在の護岸構造は基本的に改良しない。載過重に対して要検討。
- ・浮棧橋はバリアフリー法を遵守する。（勾配 1/12）
- ・隣接する商業施設のプロムナード計画と整合を図り、親水性の高い計画とする。

③検討結果

検討の結果を、次ページに示す。

表2 利用・自然条件の設定と構造物の諸元・平面配置案

<p>1. 自然条件</p> <p>①潮位 H. H. W. L K. P. +3.70m 計画外水位 K. P. +2.10m 門扉閉鎖水位 H. W. L K. P. +1.70m 朔望平均満潮面 L. W. L K. P. +0.00m 朔望平均干潮面 K. P. -1.55m ~ K. P. -1.65m (水深資料より) ※へドロ口堆積土を含む</p> <p>③設計水深 K. P. -2.00m (既存計算書、工事図面より)</p> <p>④波浪 異常時50cm以下 (ヒアリングより)</p> <p>⑤土質 設計水深 -2.00m (H.2工事図面より) 厩橋砂 内部摩擦角 $\phi = 30^\circ$ (一般値を使用) 単位体積重量 $\gamma' = 10.0 \text{ kN/m}^3$ 沖積砂質土層 AS 平均N値 $N = 15$ 内部摩擦角 $\phi = 35^\circ$ 単位体積重量 $\gamma' = 10.0 \text{ kN/m}^3$ -10.90m (ポーリング調査結果より) 法相砂礫土層 Dg 平均N値 $N = 27$ 内部摩擦角 $\phi = 37^\circ$ 単位体積重量 $\gamma' = 10.0 \text{ kN/m}^3$ (平成2年度土質調査資料より)</p>		<p>②けん引力 けん引力 10 kN/基 (漁港手引より)</p> <p>③上載荷重 浮体の安定 $w = 1.00 \text{ kN/m}^2$ (ヒアリングより) 浮体の床版・受梁 $w = 1.00 \text{ kN/m}^2$ (漁港手引より) 車面荷重 無し ④連絡橋 B = 1.50 m (漁港手引より) ⑤勾配 $i = 1/12$以下 (L. W. L時) (A'リファリガイト'ライより)</p>	
<p>3. 構造条件</p> <p>①浮体の規模 浮体長さ L = 13.00 m (漁港手引より) 浮体幅 B = 3.00 m (ヒアリングより) 乾舷高さ $h' = 0.5 \text{ m}$ (ヒアリングより)</p> <p>②浮体の構造 セパレートタイプ (フroot製) ※運河水域のため、浮体は陸上輸送で現地掘え付けが容易な軽量構造であることが望ましい。(右図参照) 杭係留方式 ※水深が浅く潮位差が大きいため、浮体移動量が小さく利用安全性に優れる係留方式とする。</p> <p>③係留方式 杭係留方式 ※水深が浅く潮位差が大きいため、浮体移動量が小さく利用安全性に優れる係留方式とする。</p>		<p>モノコックタイプ ポストテンションタイプ PC鋼橋 浮体エレメント セパレートタイプ 縦溝フレーム 浮体 ウェイタイプ 貫通ボルト ウェイタイプ 図B-11-4 各タイプの構造</p>	
<p>4. 浮体種の平面配置</p> <p>①配置形式 横付け形式 ※運河の利用水域を広く活用でき、見通しが優れ航行安全性が良い。 建設予定のイオンモールの建物配置(窓・出入口)及び対岸プロムナードの張り出し形状等を考慮。(右写真参照) ※なお、設置位置は背後地の整備計画状況により今後協議変更となる可能性がある。</p> <p>②設置位置</p>		<p>イオンモール建設予定地 対岸プロムナード 入江口 大橋田</p>	
<p>2. 利用条件</p> <p>①対象船舶 2.8 GT 【遊覧船「浪切天神II」】 船長 L = 10.82 m (提供資料より) 船幅 B = 2.82 m (提供資料より) 喫水 d = 0.50 m (ヒアリングより) 最大旅客定員 27人 (提供資料より) 接岸速度 V = 0.16 m/sec (提供資料より)</p>			



(2) 夜間照明デザイン概略検討

運河全体の夜間景観の現状を分析し、全体コンセプトを作成する。次に、新川運河において基本コンセプトを作成する。最後に、照明設備の配置など基本設計を行う。

①現地調査、分析

現状の運河夜間景観の分析結果を表 3 に示す。

表 3 現状の夜間景観の分析結果

場所等	現状分析	写真
運河全体	<ul style="list-style-type: none"> 情緒性に欠ける白色のあかりが目立ち、均質的な水への映り込み。 プロムナードからのビューに工夫が不足。 眺めて楽しい要素が希薄。 	
橋梁	<ul style="list-style-type: none"> 白い道路照明のみの景観。橋の演出は行われておらず、橋が次々に登場する「運河ならではの景観」は希薄。 	

ランド マーク	<ul style="list-style-type: none"> 橋や水門など運河を彩る景観資産にはライトアップなどの演出は希薄もしくは未整備。 夜間にはかえって淋しい印象をつくっている。 	
新川 運 河地区	<ul style="list-style-type: none"> 照明のグレアが目立ち樹木の良さを感じにくい。 後背植栽は暗がりをつくり不安な印象。 ベンチやオブジェの演出も無く、留まりたくなる要素が希薄。 	

②全体コンセプト

将来像に掲げる「安全性の確保」「アメニティの向上」「にぎわいの創出」の視点を基に、基本コンセプトを『兵庫津・光の運河 絵巻』とし、運河の各エリアや景観要素を絵巻の題材ととらえ、現代の兵庫津の物語を光で紡ぐ。色彩を使う場合は、日本的な「平安の色」をイメージとする。

実現に向けては、下記5つのデザイン手法を用いる。

- ・心地よい「電球色」を基本とするあかり
- ・オールLEDによる省エネ環境配慮の計画
- ・橋/樹木/護岸/建物等のライトアップ
- ・間接照明と「魅せる・楽しい」照明の組み合わせ
- ・にぎわいづくり/おもてなしのあかりの仕掛け



図3 兵庫運河 夜間景観形成の基本コンセプト

③新川運河地区基本コンセプト

キャナルプロムナード及びイオンモール前の基本コンセプトを示す。

図4 兵庫運河（新川運河地区）基本コンセプト（キャナルプロムナード）

照明デザイン方針

『兵庫津・光の運河 絵巻』
核となるにぎわいエリアとして、各エリアを絵巻のように語り・巡られるように整備。
色彩を使う場合はすべて濃い「平安の色」とし、使う人々が絵巻の登場人物のように、笑ったり涼んだり愛を語ったりする情景の創出を狙う。

新川運河地区・照明デザイン基本コンセプト

1. 歩きたい/留まりたい/自然とビューを楽しめるキャナルプロムナード

- ・樹木/植栽ライトアップ……………緑を感じる風景
- ・ポール照明の新設および配置計画の見直し(LED化)・明るさの確保/グレア改善
- ・既存足元灯の見直し(LED化/配光制御/再利用)……………グレア/色温度改善
- ・ベンチ下照明/光るベンチの導入……………滞留の仕掛け

2. にぎわい施設らしい楽しさのあるプロムナード(商業施設側へ要望)

- ・オリジナルプロムナード照明……………商業施設外構との連携
- ・オリジナル手すり照明……………水際空間での安心安全の確保
- ・雁木の演出……………歩行の安全確保・水際の修景/船や対岸からのビュー

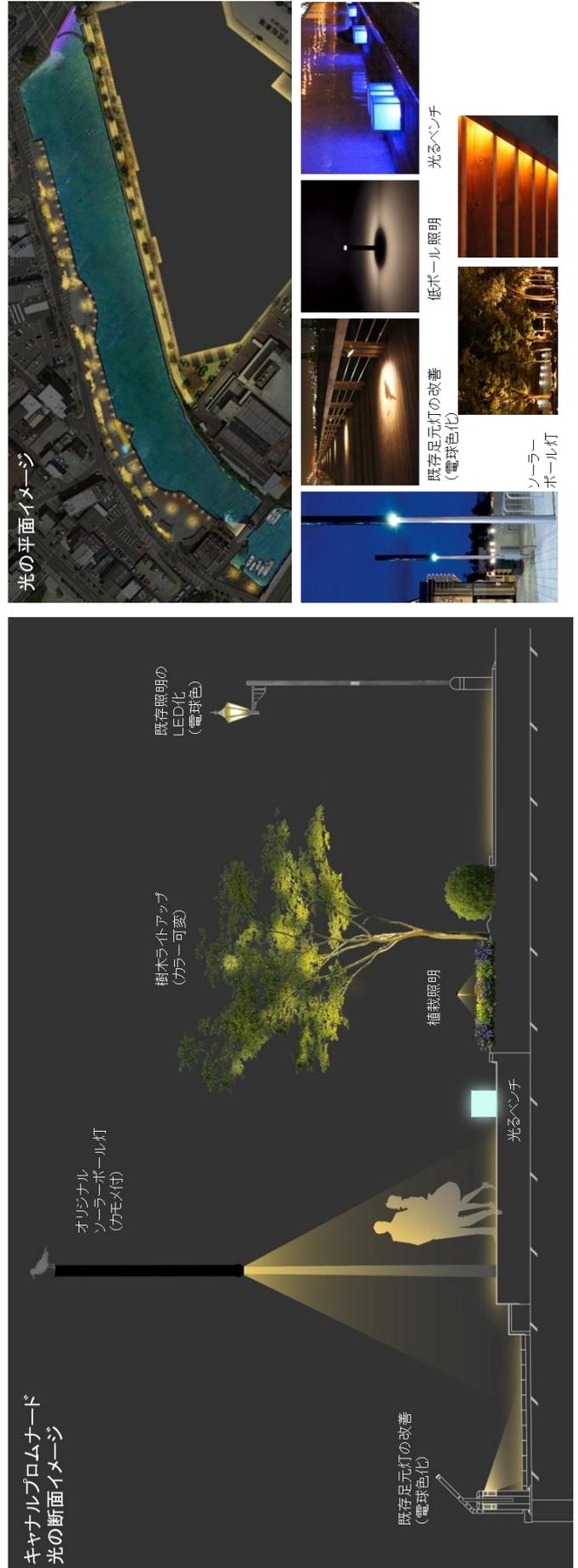
3. ランドマークのライトアップ

- ・入り江橋/大輪田水門ライトアップ……………お出迎えのあかり

4. おもてなしのあかりの挿入

『兵庫津・光の歳時記』

- ・歳時記の合わせて変化するカラープログラムの導入(神戸市ライトアップチームの運動)



『兵庫津・光の歳時記』

「平安の色」をイメージし、季節の歳時記や移ろいを表現するカラー演出を行う

■ カラー変化のパターン

※ 基本はすべて常時・電球色点灯。年間プログラムによって15分ごとに季節カラーが再現される。色の項目は10秒間フェードイン・フェードアウトとする。

基本の点灯状態：電球色



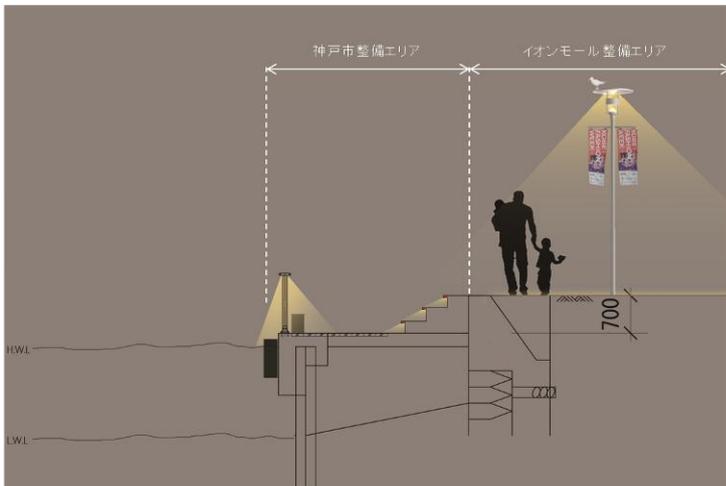
『兵庫津・光の歳時記』プログラム(案)

イベント等	期間	色	「兵庫津・光の歳時記」における色
1 元旦	12/31~1/1	紅白	黄色×白
2 阪神淡路大震災犠牲者追悼	1/22~31日	紺系	紺青色×古代紫
3 春節イメーজ	2/1日~13日、15日~28日	紺系	赤竹葉×鬱金色
4 バレンタインデー	2/14日	赤系	黄色×桃色
5 結の節句と春待ちのイメージ	3/1日~31日	紺系	紺青色×緑色
6 ライト・イット・アップ・ブルー (世界食糧危機啓発デー)	4/2日	青系	深緑系×群青
7 キャナルレガッタ神戸「春の陣」	4/1日、4/3日~30日	紺系	深緑系×青丹
8 神戸まつりみどりの日 含む	5/1日~31日	紺系	深緑系×青丹
9 プロボースの日 含む	6/1日~10日	紺系	紺青色×古代紫
10 紫陽花イメージ	6/11日~31日	紺系	紺青色×古代紫
11 海の日 含む	7/1日~31日	青系	深緑系×群青
12 みなとこころ会館花火大会 含む	8/1日~31日	赤系	黄色×赤竹葉
13 兵庫運河祭 含む	9/1日~30日	青系	深緑系×群青
14 ピンクリボンデー 神戸システィーナストリート 含む	10/1日~31日	紺系	紺青色×緑色
15 キヤナルレガッタ神戸「秋の陣」 オレンジリボンデー 含む	11/1日~11日	紺系	赤竹葉×鬱金色
16 パーフルボンコンベンション (神戸市の啓発)	11/12日~13日	紺系	紺青色×古代紫
17 プルーサークルコンベンション (世界食糧危機啓発デー)	11/14日~30日	青系	深緑系×群青
18 クリスマス	12/1日~30日	紅白	黄色×深緑



図5 にぎわい演出の仕掛け (カラープログラム)

■ イオンプロムナード側



注) 計画イメージです。

【神戸市整備エリア】

- 1 手摺照明・・・笠木へのLED埋設
- 2 階段間接照明・・・階段蹴込み部LED設置

【イオンモール整備エリア】

- 1 ポール照明・・・4m以下 賑わいづくりに貢献するマリスタイルのデザイン、非常車両通行エリアを避けて設置
- 2 緑化壁演出・・・イオンモール外観の緑化壁をハイパワースポットライトによりライトアップ

■ 手摺照明のイメージ



対岸のプロムナードなど水辺夜景を楽しめる。低位照明が最適。色温度は必ず3000K以下とする。

手すり笠木にLEDテープライトを仕込むかLED付手すりを採用するなど。

LED手すりの製品事例

ナカ工業

<http://www.naka-kogyo.co.jp/products/handrail/vinilana-stella.html>



■ 緑化壁照射用スポットライト案



遠隔照明

ERS3042S(本体)+RB-365S(アーム)

<http://www.ers.co.jp/>

■ 階段間接照明のイメージ



■ ポール照明デザイン案



ルイスボールセン社
オービター
3~4m支柱
3000K
フラッグ支柱付仕様
上部に兵庫運河アイコン
(ステンレスプレート抜き)

図6 兵庫運河 (新川運河地区) 基本コンセプト (イオンモール側)

(3) 水辺利活用に係るマーケティング調査

1) 調査目的

水辺を利活用して活性化を図る民間事業者を対象に、事業実現可能性についてヒアリング調査を実施した。またヒアリング調査にあわせて、水辺利活用に係る基盤整備等の必要性や占用条件等を調査し、検討を行った。

2) 民間事業者（ヒアリング対象）の抽出

「神戸港や兵庫運河で活動もしくは見込みがある事業者(市街地西部活性化プロジェクト)」、
「水都大阪などで先行事例のある事業者」から、表3のとおり事業者を抽出した。

○「地下鉄海岸線・市街地西部活性化プロジェクト」

神戸市は人口減少・高齢化、活力低下が進む市街地西部地域を対象に、新たな活性化策の創出を目的に、有識者と市関係部署等で構成するプロジェクトチームを平成26年度に設置した。

地域活性化に資する「事業者自らが実施主体となつて行う新たな活性化策」に対して、事業化に向けた実編可能性調査や事前準備、イベント開催等の直接経費の一部を支援する仕組みである。プロジェクトの指定を受けると、国等関係機関への補助金申請や許認可取得、規制緩和等に対し市がサポートし、プロジェクトチームメンバーからの助言・サポートや事業広報・プロモーション活動支援が得られる。

表4 民間事業者（ヒアリング対象）数

業種	社数※
遊覧船事業者、クルーズ事業者	5社
マリーナ事業者、マリーナ関連事業者	3社
アウトドアスポーツ事業者	4社
飲食事業者（水上レストラン構想含む）	2社
地域観光・まち歩き事業者	1社
商業施設事業者	1社

※1社で複数業種を扱っている会社は、業種毎にカウントした。

3) モニタークルーズ調査

まず個別ヒアリングに先立ち、事業者向けに現地モニターツアーを実施した。現地ツアー後、事業者の視点から、①魅力・資源と課題、②試行実施可能な企画、③事業成立条件についてワークショップ形式で意見交換を行った。調査結果を表4に示す。



図7 モニタークルーズ調査の様子

表 4 兵庫運河の魅力・資源と課題

項目	評価（○：魅力・資源, ×：課題）
航路・船着場等	<p>○新川運河：<u>他船の運航が少なく、水が穏やか。</u> <u>ウォータースポーツの拠点に適している。</u></p> <p>○浜山小学校前プロムナード</p> <p>○西宮から内航を通して、都心・WF、兵庫運河と運航できる。</p> <p>×大輪田水門：運航できる<u>船に制約</u>がある。</p> <p>×和田岬線：<u>橋の低さ</u>。苧藻方面に通じ抜けられない。</p> <p>×運河⇄海側：運河内を通る<u>小型船では、海での揺れが激しい。</u></p>
景観・資源	<p>○大輪田橋（コンクリート造の3連アーチ橋）</p> <p>○和田岬線・旋回橋（橋と列車、隣の浅瀬・家具屋）</p> <p>○川崎重工兵庫工場：<u>運河から車両が見える</u>。工場好きが集まりそう。 車両工場の人が手を振ってくれた。</p> <p>○苧藻運河：金川造船所の風景</p> <p>○三菱重工神戸造船所：潜水艦と海の風景</p> <p>○運河⇄海側：運河から神戸港側に出た時の<u>景色の広がり</u>、解放感。</p> <p>×<u>緑が少ない</u>。桜や紅葉など魅力ある樹木がない。</p>
にぎわい施設	<p>×<u>陸側のにぎわい施設が不足</u>している。<u>人流を生む陸上施設が必要</u>。</p> <p>×運河側に向けた見所ポイントが少ない。道路面を向いている。</p> <p>×運河周辺に公園・緑地など<u>公共空間が少ない</u>。</p>
自然・水質	<p>○<u>水質がきれい</u>。エンジンを切ってきれいな水と魚を見る。</p> <p>○<u>水生生物</u>がみられる。</p> <p>○<u>人の手で自然が蘇った事例</u>。エコツーリズムに使えるのでは</p> <p>○波の音が聞こえるなど、静けさがある。</p>

4) ヒアリング調査

民間事業者に関別ヒアリングを行い、事業アイデア（イメージ）と進出意欲を調査した

表 5 事業アイデア（イメージ）と現時点での民間事業者の進出意欲

事業場所	事業アイデア	イメージ	進出意欲
運河全体	運河内クルーズ		△、×
新川運河内、 浜山小前	大型SUPなど （手漕ぎボート）		○

	ウォーターボール		○
	ウェイクボード		△、×
	ビジターバース (体験乗船会)		△、×
新川チャンネル プロムナード ほか	コンテナハウス (カフェなど)		△
	水上レストラン		△、×

(4) 事業成立条件の検討

① 運河の水辺魅力拠点（陸側施設）の創造

水辺魅力拠点づくりには、陸側に常設の賑わい施設、民間投資の誘致が必要である。また、運河内の水辺拠点が2, 3か所点在し、回遊する仕掛けづくりが必要である。そのためには、水辺に隣接した遊休地の転活用など機会をとらえるとともに、新川運河プロムナードなど公共空間活用の必要性が確認された。

② 港湾区域を活用した官民連携の仕組みづくり

- ・ 港湾区域など公共施設を特定事業者が占有する場合、公共性を判断する基準や仕組みが必要である。今後、有識者や地域、市関係部局で構成する『地下鉄海岸線・市街地西部活性化プロジェクトチーム』など、既存の枠組みを活用して、公共性を判断する第三者組織や

公的事業主体となる仕組みを検討する必要がある。

- ・新たに運河を活用した活性化事業の展開を検討する事業者に対しては、平成 26 年度に創設した『市街地西部地域活性化プロジェクト』事業提案募集を活用する。

③水面利活用ルールづくりなど民間事業者間の連携

- ・クルーズやウォータースポーツの事業実施には、動力船と非動力船の運河内航行ルールや船着場利用ルールが必要である。既存利用者や関係機関との調整など、利用者相互が安全で利用しやすいルールとなるよう、試行しながら段階的に策定することが有効である。
- ・港湾区域の占用主体や関係事業者による協議会を立ち上げ、事業者相互の調整やデザインガイドライン、プロモーション、占用協議など、新川運河エリアのマネジメントを行う必要がある。
- ・初期段階では、地域代表、利活用希望企業、イオンモールなどにより構成し、相乗効果を高めるアイデア出しや試行実施を行う。事業実現性の検討ののち、長期占用の事業計画を提案するなど、段階的なプロセスを経る必要がある。

④民間投資誘致のための基盤整備等

事業進出に意欲を示す事業者より、下記の基盤整備、設備等整備の必要性が確認された。

- ・船着場（水辺アクセス）、係留場所・給油施設（船舶）
- ・景観整備（プロムナード、夜間景観形成、緑化、美装化など）
- ・プロムナード等での給排水・電気（コンテナハウス、イベントなど）

3. 基盤整備の方向性と効果

大型商業施設の開業により年間 750 万人の来場が見込まれ、運河周辺地域の集客・回遊拠点と期待される。本市としては、来訪者が商業施設内にとどまらず、水辺環境を楽しむことによる集客効果や、周辺の歴史資源や産業観光資源への回遊行動を促進するため、下記の基盤整備等を行う。

1) 整備の方向性

新川運河において親水空間や夜間ライトアップの整備を行う。平成 27 年度に設計を行い、平成 28 年度に施工予定である。また、兵庫運河側でも平成 27 年度よりプロムナード整備を行う。

さらに、「市街地西部活性化プロジェクト」提案募集を、平成 27 年度も実施する予定である。同制度の活用により、新たな活性化事業の展開が期待される。

2) 民間の活動と一体的に整備する効果

商業施設側でも既定のプロムナード整備計画だけでなく、「イベント広場の設置」や「建物も含めた夜間ライトアップの整備」など水辺空間の高質化に向けて、具体的に検討されている。

また、本市と商業施設者が連携して基盤整備等を検討し事業化することにより、民間事業者の事業進出意欲が高まりつつある。今後、商業施設のテナント事業者や他の提案事業者など民間事業者間で連携を図りながら、地域活性化に貢献する事業展開を期待したい。

4. 今後の課題

今後、より一層の水辺の魅力向上を図るためには、周辺未利用地等の開発を契機とした基盤整備とともに、官民が連携してにぎわい創出を図り、地域ビジネスとして継続的に管理・運営できる体制、仕組みづくりが求められる。